

あるお母さんからのお手紙

以下は、小さなお子さんを育てていらっしゃるお母さんが、周りのお母さん方に伝えたいと書かれました。すべての方にお読みいただきたい素晴らしいお手紙です。

いのちと暮らしを紡ぐネットワーク

<https://www.corowaku.info/>



子どもたちのお父さんお母さんへ

この度は、コロナ禍と呼ばれる未だかつてない状況の中で、同じ保護者の立場として、この間感じてきたことをお手紙にさせていただきました。

2020年よりはじまったコロナパンデミックにより、私たちの生活は様変わりし、子どもたちの日常や、教育現場も大きな影響を受けました。

「世にも恐ろしいウイルス」と聞いて、皆がマスクと消毒剤を求めて右往左往し、学校の一斉休校、思い出になるイベントや行事が中止・変更となりました。

今まで当たり前だった人間関係や教育現場、地域社会のあり方までが、不自然で味気のないものになりましたが、「致死率の高い、恐ろしい病をみんなで克服するためなんだ。自粛生活の犠牲は仕方がない、我慢我慢」と、私も思っていました。

けれどある時、「コロナで死亡したとされている数は、実は例年のインフルエンザでの死亡者数と同程度である」という事実を知りました。「え…？」

「だったらなぜ世界中でこんなに騒いでいるんだろう。今まで通りの暮らしでも自然に集団免疫ができて、波はそのうちに収束するんじゃないのかな。どうして新しい生活様式が必要なんだろう？」と次々に疑問が湧き、自分で調べ始めました。

調べてみて、まず毎日のようにテレビで報道されている「コロナ感染者数」について「PCR陽性者＝コロナ感染者ではない」という事実を知りました。「え…？じゃあ、あれは一体、何の数を発表しているの？」